

第72号

広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042 広島国泰寺高等学校内

鯉城同窓会

電話(082)241-9777 FAX(082)248-7341

E-mail rijo@orion.ocn.ne.jp

URL http://www.rijo.gr.jp

鯉 城

題字は塩田宏司(洲鵬)氏

一中1年だった兒玉光雄さん 被爆後の壮絶な歩み

NHKの
横井さん出版

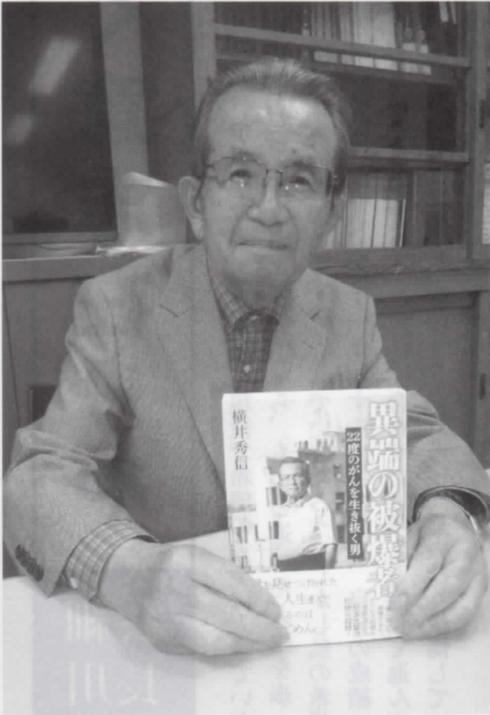
広島一中1年の時に被爆した兒玉光雄さん(87)の足跡をたどった「異端の被爆者」(新潮社)が出版された。著者はNHKプロデューサーの横井秀信さん(44)。被爆体験記にとどまらず、家族の歴史や時代背景を押さえながら、兒玉さんの壮絶な歩みを克明に描いている。

本は7つの章で構成されている。

第1章では、兒玉さんの出生から一中入学までを描く。2、3章は被爆当日の惨状と後遺症との闘い。4、5、6章では大学を卒業後、郷里の町興しに注いだ情熱と挫折感、その後の転職。第7章では、生き残った級友たちそれぞれの、その後の人

生模様などを記している。

荒波に翻弄されるような人生。兒玉さんの心境が、次のように紹介されている。「わたしはあの一瞬で人生が決められたいうようには、思いたくなくかつたからね。もちろん、忘れられやせんよ。(中略)そんなたびに、なにくそ、わしゃ負けやせん」と、



評伝「異端の被爆者」を手にする兒玉さん



被爆死した生徒らの名前が刻まれた「追憶之碑」

乗り越えようとしてきたんよ」

本の「序章」によると、兒玉さんと横井さんの出会いは、14年前にさかのぼる。NHK広島放送局のディレクターだった横井さんは、爆心地から半径1キロメートル以内で被爆した生存者を探していた。一中もその範囲内にある。当時そのエリアに住んでいた人は約7万4千人。2人の出会いの時点で、およそ1200人しか生存していなかった。

兒玉さんの口から語られる被爆の惨状と、その後の級友の消

息。あの日登校していた307人のうち半数が建物疎開の作業に行き、残る半数は校舎で待機していた。結局、作業に従事していた生徒は全滅。待機組のうち生き残ったのは19人だけ。証言をもとにした取材は、優れたドキュメンタリー番組として実を結ぶ。横井さんが広島を離れてからも、2人の交流は続き、深まっていった。

月日がたつうちに、横井さんが世話になった被爆者が次々に亡くなっていく。そのたびに「あれも聞いておけばよかった」という後悔の念が胸を突いた。「兒玉さんに対してだけは、後悔したくはありませんでした」。それから何度も広島に足を運ぶ。兒玉さんはすべてをさらけ出して語った。

膨大な量の放射線を浴びたせいで、染色体が何か所も損傷している兒玉さん。これまでに約20回のがん手術を受けた。しかし一昨年、腎臓がんの手術に際し、血液の血小板が極端に減少していることが判明し、断念した。今回の出版は、兒玉さんの著述の集大成の面もある。兒玉さんは「これからの人生、放射線が人体にどれだけのダメージをするか、それを訴え続けていくつもりです」と語っている。

「志」貫く意志在りや

細川 会長



細川匡会長
(昭和41年卒)

「隔世の感」

国泰寺高校時代の最大の悔いは、勉強しないで親や先生を泣かせたこと。最高の収穫は、親や先生の反対を押し切りサッカーに没頭したこと。
今年度三月、母校を卒業した二百八十名の五割以上が国公立

大学に合格と聞いて、真正正銘の劣等生だった私は頭を垂れた。直後、「浪人は何名ですか?」と尋ねた私は、「十六名です」との答えに啞然とした。

私たちの時代には、三分の一程度が浪人だった。当然ながら私もその一翼を担い、ご丁寧に二浪までした。だが、二浪したことを恥ずかしいと思ったことはなく、そのお陰で今日がある

とさえ考えている。もちろん勉学を蔑ろにせず、

現役で希望の大学に入っていたら、もっと違った人生を歩んでいただろう。しかし私の希望する大学でなく、自分の成績に合わせた大学に妥協して進んでいたなら、間違いなく後悔していたと思う。

一方、ほぼ毎日のように練習に明け暮れた私たちと異なり、現在のサッカー部は週に二日しか部活が許されていないと聞き、愕然とする他はない。それだけの練習にも関わらず、

よくぞ立派に戦っていることに、喝采を贈りたい。と同時に、好きなスポーツに全身全霊を傾注できぬ現状に、憐れみを禁じざるを得ない。

誤解しないで欲しいのだが、「現役か：浪人か：」を問題にしたいのでもなく、大学の偏差値を論じているのでもない。

私が危惧するのは、十八歳の青年時に、「志」を貫く意志が在るか：否か：である。

そして親や教師に、その「志」を育もうとする意志が在るか：否か：である。

今更ではあるが、身の程知らずの「志」を見守ってくれた、親や恩師に感謝する次第である。

555回目迎えた二木会

出席者増へアンケート

去る9月30日に開催された「令和元年度第2回幹事会」において、二木会に関するアンケート調査を行った。

理由は、ここ数年、二木会への出席が減少傾向にあることから、同窓生の二木会に寄せる想いを検証したいという考えから

である。

昭和33年に第1回を開催してより、今年10月で555回目を数えた歴史ある「二木会」。

鯉城同窓会の総会に並び根幹を成すといつてよい歴史ある二木会の調査結果をここに掲載し、同窓生に意見を求めたいと思つ

ている。調査用紙は、第2回幹事会で各卒業年幹事に配布。36学年60余名が出席し、32学年から回答があった。

1学年を除き、二木会は知っているが幹事として同期に呼びかけをしていないが7学年、1回、3回出席が多くを占め、8回以上出席が10学年であった。

二木会の意義について、大半の回答が「同窓生や同期生と会える貴重な場であり、先輩・後輩の同窓生としてのつながりを強く感じる場でもある」と回答

しており、これからも二木の灯を絶やさず継続してほしい旨つづられていた。

また、講師については、「同窓が良いと思うが、年間1回から2回は他校出身講師でも話題性があれば良いのではないか」という意見もあった。

いずれにしても、予定がわかりやすい現在の二木会の年間計画や9回開催については継続してほしいというものが多くあり、さらには、当番幹事のご苦労にも思いを寄せて頂いた記述も

あった。

毎回の参加は難しいが、3回程度は出席し、当番幹事に協力したいとの思いが伝わってきた。終わりに、他校同窓会にはあまりないミニ定例会「二木会」は、

当同窓会の顔であることを再認識し、広島一中・広島国泰寺高等学校の同窓生として「縦と横でつながる同窓会」を目指して、活動していきたいと決意を新たにした。

「二木会」でつながろう 鯉城同窓会

運営委員長(昭和54年卒) 越智孝広
同窓会奨学財団の
事業開始から5年

鯉城同窓会奨学財団の奨学金給付事業は、平成27年度から実施がスタートし、今年で5年目を迎えた。昭和29年卒の松尾聰さんから「年間300万円程度を10年間にわたって継続拠出する」という内容の申し出があったのが発端。本年度が寄付の折り返しの年になった。

この5年間に給付を受けたのは合計59人(うち在校生は39人)。アメリカやヨーロッパ、の大学や国内の有名大学で学ぶ学生への留学・研修・修学支援が目立つ。給付金総額は1,547万円余りにのぼる。

鯉城同窓会OB講演会が6月26日、母校体育館で開かれた。講師は映画監督で映像作家の時川英之さん(平成3年卒)。学生時代に就職活動を前に立ち止まり、映像への愛着を大切にしながらの歩みを披露しながら、「自由なことを自分で見つけて歩いていけば、夢が全部かなわなくても近づいてくる」と後輩たちにエールを送った。



時川英之さん
(平成3年卒)

誘っていた。

「映画が好きなのだから映画の勉強をしてみよう」。周囲の反対を押し切って、大学を休学し、カナダの映画学校に入学。1年

リエーターとして、シヨートド キュメンタリーなどを制作した。多国籍の人と隣り合わせの机に座り、競争、協力しながら作る職場では「いろんなことを教わり、成長した時期」でもあった。しばらくして再び、偶然の出会いから東京でのデイズニーマンチャンネルの立ち上げに声がかかる。プロデューサーとして番組制作をし、1年契約で退社。フリーのディレクターとなった。

ラ鳥沖大地震による大津波だった。プーケットのピビ島に着いて間もなく、引いていた波が戻ってきた。波に巻き込まれ流される中、5階建てホテルに飛び移り、外壁のパイプをつかんで3階までよじ登った。それから「書く、作ることに対して、ものすごく執着するようになり、何か変わった」

2011年3月、東京のマン

何をするか、個人の勝負なので(居場所)関係ないと思った」からだ。

広島に戻って、中国放送のアナウンサーと出会い、興味を引かれたラジオ番組の話から作った「ラジオの恋」。続いて、福山市内の老舗の映画館を描いた「シネマの天使」。昨年、カープ映画を作りたいとの話が持ち込まれ、それを使った作品も制作した。

OB講演会

わが道を見つけて歩もう

映像作家の時川英之さん(平3年卒)

大切に育てたい創造力

高校3年間、サッカー部に所属。サッカー漬けの日々だったが、鮮明に覚えているのが高校1年生の国語の授業。うろこ雲の写真を見て作文を書いた。「うろこ雲が出ると大漁という伝説のある村があって」との創作話で原稿用紙3枚くらいになった。それがクラスみんなの前で先生から絶賛された。

東京の大学に進学。周囲が就職活動を始め、サラリーマンになる決まったルールを進んでいく。そんな時、「自分は何をしたいのか」と悩んだ。

そこで、映画好きな自分に気づく。「中学時代に仲間とビデオカメラを回してドラマみたいなものを作っていた」。遠足のバスの中で上映。同級生の大笑いを

聞のコースで朝から晩まで映画を学んだ。卒業制作では、プレゼンをしてトップになった生徒が監督に選ばれる。アジア人で初めて監督を射止めた。

帰国後、大学を卒業して東京の広告代理店に勤務。映像メディアの道を歩み始めた。しばらくして偶然に出会ったカナダ人からシンガポールで立ち上げるテレビ局のプロデューサーを打診される。

シンガポールでの3年半はク

そこで出会ったのが、いままも師事している岩井俊二監督だ。厳しさ、ものを作ることへのこだわり、突き詰めていく姿勢。多くを学び、「気がつく」と自分の目標が目の前に現れている」という感じだった。

「監督は映像を撮るだけだが、脚本が書けるといっても求められる」。書き溜めた脚本を持ってタイ・プーケットに向かった。その旅先で九死に一生を得るような出来事に遭遇する。スマト

シオンで映画会社から持ち込まれた企画の脚本を執筆中、大きな揺れを体験した。東日本大震災である。その企画は中止となったが、東北の被災地に向向き、震災で汚れた写真を洗うボランティアのドキュメンタリーを撮った。

「何かを変えたい」。震災後、こんな思いが募り、広島への帰郷となった。「都落ちみたいに逃げるのかと言われたが、すごく前向きだった。どこにいようと、

「なぜ映画を作りたいのか」。自ら問いかけ、その答えは「高校の授業での『うろこ雲』のような話」として創造力を挙げた。「自分が創造し、その創造を自由に羽ばたかせ、本当に面白いものを自由に羽ばたかせると、人を魅了する」と言うわけだ。

「どんな道に進んでもそれぞれの旅があり、どんな旅をしたのがが仕事に現れたり、人に影響を与えたりする。自分たちの旅を頑張ってください」と結んだ。

《プロフィール》

1972(昭和47)年生まれ。明治大学政治経済学部卒。「ラジオの恋」「シネマの天使」「鯉のはなシアター」など作品多数。広島国際映画祭2018で「ヒロシマ平和映画賞」を受賞。

80代著名会員の訃報相次ぐ

この1年、各界で大きな業績を残した同窓会員の訃報が相次いだ。そのうち同窓会や社会への貢献度を総合的に判断し、5人を取り上げさせてもらった。いずれも80代で、5人のうち3人は昭和24年⑤卒の同期生。言うまでもなく、戦後の学制改革の過渡期を、身をもって経験した世代。足跡を振り返りながら、故人と縁の深かった同級生らの追悼の言葉を紹介する。

原爆孤児から僧侶へ 一中慰霊祭の導師も



諏訪了我さん
(3月逝去、85歳、昭和24年併卒)
広島市中区大手町
実家のお寺は、現在の平和記念公園の中にあつたが、原爆で壊滅し両親と姉を失つた。中島国民学校(現中島小)6年生だった諏訪さんは、三次市に集団疎開中だった。一瞬にして孤児になつた少年は、親類の世話にな

りながら、一中に進学した。

現役時代は、各地で原爆死没者を悼む法要の導師を務め、法話などで体験も語つた。平和公園の一角にある被爆建物のレストハウス(旧大正屋呉服店)の保存を求める活動にも携わつた。母校構内で毎年営まれる一中原爆死没者慰霊祭にも、長年、導師として参列した。

昨年9月、肺がんと肺結核により最初の咯血。その量は洗面器一杯分もあつた。病に臥しな

一筋に核廃絶の願い 一言居士の核物理学者



葉佐井博巳さん
(1月逝去、87歳、昭和24年⑤卒)
広島市佐伯区旭園
被爆体験は広島一中2年の時。当日は生徒動員先の旭兵器

がら、亡き父親の随筆原稿を、冊子にまとめる編集作業に没頭した。今年3月11日、印刷所に最後の原稿を手渡し、その数十分後に4回目の咯血。そのまま亡くなった。

養子の義田さん(47)は「決してあきらめない、粘り強い性格でした。やるべきことをやり終えた印象です」。そして「孤児としてつらい思いもあつたでしょうが、門徒さんらに感謝の気持ちを持ち続けました」。孤獨な立場の人に寄り添うつもりだったのか、ライフワークとして刑務所、拘留所の教戒師を30年以上続けた。

広島大工学部を卒業後、核物理学者の道を歩み、原子力災害などで放射線量の危険度を測る計算方式を開発した。広島大教授を経て、広島国際学院大学長。一貫して核廃絶を訴え続けた。

一中時代に同級生だった楠田哲夫さん(広島市中区)は「彼はもともとまっすぐな性格で直言居士。反核運動に取り組み姿勢にも、そんな性格の片鱗を感じました」と振り返る。30、40代のころは、もう1人の同級生と3人で毎週のようにマーじゃん卓を囲んだ。「自分もいつかあの世で彼と会います。その時はまた一緒にマーじゃんを楽しみたい」としみじみと語つた。

議員活動通じ 教育改革に貢献



製作所(廿日市市)で働いていましたが、帰宅が許された翌日、入市被爆。

亀井郁夫さん
(3月逝去、85歳、昭和24年併卒)
広島県庄原市

東大法学部卒業後、旭化成に入社。総務部長や取締役などを経て、広島県議に転身。その後、参院議員選に立ち当選。参院文

教科学委員長や内閣政務官を歴任した。「教育改革なくして日本の未来はない」が持論で、教育問題に熱心に取り組んだ。山口福祉文化大（山口県萩市、現至誠館大）を運営する学校法人萩学園（当時）の理事長も務めた。同窓の後輩、伊藤暉さん（昭和35年卒）から追悼文が届いた。

「故郷（庄原市）が一緒ということもあり、随分、親しくしていたできました。亀井さんは約20年前、広島県陸協の会長をしておられ、当時、新聞社で事業を担当していた私と、県民の森を舞台に「日本マスターズクロスカントリー」を立ち上げました。忘れられぬ思い出です」

同窓会活動に貢献

一中時代は野球部エース

田村鋭治さん

（3月逝去、87歳、昭和24年⑤卒）
広島市中区国泰寺町

広島信用金庫の元理事長。広島経済同友会の筆頭代表幹事を務めるなど、広島の財界を中心に活躍した。スポーツや海外交流でも要職を歴任。広島市体育協会会長や、同市スポーツ協会会長、広島シンガポール協会会長

長を務めた。

一中時代は、戦後復活した野球部で不動のエース。4年前に甲子園で開かれた第1回大会を再現するイベントでは、84歳にしてマウンドに上がり、会場を沸かせた。

同窓会活動にも大いに貢献。平成12年から4期8年にわたって会長を務めた。会長を退いた後も、顧問としてご意見番の役目を果たし、毎月の二本会には欠かさず出席し続けた。温厚な表情物腰は終生変わることがなかった。



能のイベントであいさつをする田村さん

一中の同期生で、田村さんと同窓会会長・副会長のコンビを組んだ福岡駿吉さんは「大声を出し

叙勲・特別表彰など総会で顕彰

各種の賞を受賞した同窓生の方々と団体が、11月16日の総会で顕彰された（敬称略）

- 〈叙勲・褒章〉
（平成30年秋）
▽瑞宝中綬章（教育研究功労）
増田 信彦 〓昭和34年定
（令和元年春）
▽瑞宝双光章（郵政事業功労）
田中啓次 〓昭和40年
（令和元年 危険業務叙勲）
▽瑞宝双光章（防衛功労）
- 安藤政美 〓昭和53年通
▽瑞宝双光章（防衛功労）
福西 稔 〓昭和53年通
（令和元年秋）
▽瑞宝単光章（警察功労）
川崎芳章 〓昭和32年
▽瑞宝双光章（矯正教育功労）
田中哲彦 〓昭和39年
▽旭日小綬章（公認会計士功労）
石橋三千男 〓昭和41年
▽旭日小綬章（納税功労）
迫 正博 〓昭和41年

〈特別表彰・感謝状〉

- ▽社会貢献
竹林 守 〓昭和29年
- ▽社会貢献
大島昭彦 〓昭和41年
- ▽文化振興
時川英之 〓平成3年
- 〈感謝状〉
▽母校振興
鯉城蹴球団
- ▽同窓会振興
鯉城関西同窓会

私大経営に手腕

交渉事に骨太学者の側面

坂田正二さん

（10月逝去、88歳、昭和24年⑤卒）
広島市中区白島北町

広島文化学園名譽学園長。広島大文学部を卒業後、広島文化女子短大教授、同大教授、広島文化学園理事長、呉大学長、広島文化短大大学長などを務めた。



著書は「中世初期における隣人意識とその変遷について」「地

て人を引っ張っていくタイプではなく、誠実さを生かして黙々と励むリーダー。トップに据えたら格好がつく人間でした」と回想。一中のピッチャーだった

田村さんについては「小柄だが、広商や広陵との対抗戦でも、鋭いドロップを投げると、相手はほとんど打てなかったのを覚えている」と往時を偲んだ。

方私立短大の定員割れの実態とその意味するもの」など多数。文学博士。

一中から広島大学文学部へと同じコースを歩んだ福岡駿吉さんは「学者肌のまじめな人間だったが、かと言って学究一筋でなく、国や県との交渉でも手腕を発揮していた」。また坂田さんが広島県の教育委員を務めていたころを振り返り「教育行政を取り巻く大小の圧力、難問に対して、全力で取り組んでいた姿を思い出します」と骨太の一面を語った。

体調を崩し、ここ7、8年は一中同期の集まりにも顔を出さなくなっていた、という。



お互いにサッカーの伝統校



唯一の勝利を飾った卓球

広島藩浅野家の初代藩主・浅野長晟が広島城に入場して今年で400年。広島国泰寺高校は明治10年に創立された広島中学校が前身、当時近くにあった国泰寺は浅野氏の菩提寺であり、楠の葉と鷹の羽をあしらった校章にもそのゆかりがうかがえます。一方、修道高校は浅野家の藩校を起源とする学校。この浅野家に縁深い両校がスポーツを

通じて交流を深めようと、芸州頂上決戦と銘打たれた「修国戦」の第1回が、令和元年5月21日(火)、中区南千田西町の修道中・高等学校を会場に行われました。両校の応援合戦で幕を開け、サッカー、ソフトテニス、バスケットボール、バドミントン、剣道、テニス、卓球、バレーボール、リレー、綱引きで勝敗を競

いました。残念ながら本校は、卓球のみ1勝し、残りは全敗という結果に終わりましたが、当日は互いの高校用にスティックバレーン等、修国戦のための応



綱を握る手にも力が入る



応援団も全力プレー

援グッズも用意され、どの会場でも本格的な応援が行われました。応援を通じた生徒同士の交流も生まれ、温かくも熱い雰囲気にも包まれた1日となりました。このような交流は大変意義深く、これからも継続したいと思っております。十番勝負と銘打ち、まずは10年間続けましょうとの提案を修道からも受けているところ。なお、文化面でも、すでに本校の吹奏楽部と修道中・高校の吹奏楽部・グリークラブが連携をしていることから、今後は両校の交流の幅を広げることも考えています。

国泰寺高校教頭 田中 勲
(編集部注：写真はいずれも母校写真部提供)

鯉城関西同窓会総会

3月8日(日)
開催 11:00

大阪新阪急ホテル

中 令和2年度

総会

日時 **11月21日(土) 17:00**

場所 **リーガロイヤルホテル広島**

当番幹事 **平成9年卒業生**

鯉城東京同窓会総会

5月13日(水)
開催 18:30

東郷神社内「ピーターハウス」

浅野家 入城400年

熱気こもる十番勝負

ゆかりの2校「修国戦」

解散キャンセル 作品展を継続へ

昭和33年卒 道上孝典

昨年の会報で、昭和33年卒業生の美術愛好者の集まりである「燦燦会」を、傘寿を迎える区切りの良い第10回を以って解散した旨の報告をいたしました。この1年、多くの諸先輩、後輩、同級生の学校関係者は勿論のこと、一般の皆様からも、「もつと続けてはどうか」との有難いお言葉を沢山頂戴いたしました。



同期の仲間が芸術、工芸作品を持ち寄り開催する作品展。昭和33年卒の「燦燦会」は昨年限りで解散を決めたものの、惜しむ声に後押しされる形で再出発。36年卒の「みろく会展」も、もつと踏ん張りする覚悟を固めた。

理由に辞退したものの、多くの者が、ボケ防止にもなるから、死ぬまで続けるとの力強い気概を持つていたことが判りました。

善は急げとばかり、意欲ある者数名が集まり、取り敢えず、

来年の開催に 向け心の張り

昭和36年卒 中村晃二

第9回「みろく会展」が広島県民文化センターを会場にして、9月18日から4日間開催されました。出品者は昭和36年に卒業し、今年喜寿を迎えた17名の同期生です。

展示された作品は絵画（日本画、油絵、水彩画、木版画）、写真、書、陶芸、木彫、刺繍等多彩で、作者の人物が表れた作品群です。

会場には沢山の方々に来られ、鑑賞していただきました。来場者の中には多くの先輩、後輩や同期生がおられ、作品の鑑賞だけでなく、高校時代の思い出や、当時おられた先生方の話題で盛り上がり、和気あいあいの雰囲気になりました。

広島在住の絵画部門が、第1回を広島県職場美術協会主催の展示会に出品することから始めました。

会の名称も、33年卒を、ひらがな読みにした「みとみ」会として再出発すること致しました。

来年からは、絵画、写真、書、工芸等幅広く拡大する所存です。

(広島市佐伯区薬師が丘)



展示会の終了後打ち上げ会があり、第10回の開催を行うこととなりました。これからの1年の目標がまたでき、もつと生きていくわけにはいかなくなりました。

来年は9月29日からの5日間、県民文化センターで開催します。

皆様の作品への鑑賞が励みになります。母校の話をしに会場にお越し下さい。

(広島市佐伯区海老園)

平成30年度決算報告 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

I 一般会計の部

(単位：円)

収入の部		支出の部			
前年度繰越金	7,878,784	会報製作費	2,434,456	母校振興費	6,222,681
会費等	3,709,020	事業費	503,997	慰霊碑献花料	43,740
新入会員会費	2,722,000	HP更新及びPCシステム管理費	178,158	慶弔費	10,592
終身会費及び年会費	987,020	二木会助成費(当番幹事)	960,934	光熱水料費	97,806
寄附金	9,843,802	消耗品費	278,800	会館管理費(清掃等)	122,592
サポーター制度寄附金	8,505,380	印刷費	144,240	修繕・保守点検費	102,600
寄附金	1,338,422	通信運搬費	354,134	手数料	8,456
雑収入	307,891	会議費	338,920	事務費	1,552,000
電話使用料、利息等	307,891	顕彰費	213,840	雑費	215,205
収入計	21,739,497	支出計	7,956,346		

II 基金

1 鯉城同窓会基金

(単位：円)

前年度繰越金	11,079,757
次年度繰越金	11,079,757

2 教育振興基金

(単位：円)

前年度繰越金	16,500,000
次年度繰越金	16,500,000

する参加者



令和元年度同窓会総会



会員の協力に感謝する横田英一郎代表幹事



思い出話に花を咲かせる仲間たち

ひろがる



叙勲・特別表彰などで顕彰された方々

この度は令和元年度鯉城同窓会、懇親会に多数の皆様にご参加頂き誠にありがとうございました。また、多くのご来賓の皆様にお越し頂き、盛大に開催できましたことを心より感謝申し上げます。

総会を開催するにあたり、今年度の当番幹事の我々平成8年卒一同、微力ながら各々の時間と力を出し合いながら準備を進め、当日の運営に取り組んで参りました。

その中で多くの先輩方から「いよいよ総会じゃねえ」「大変じゃろうけど頑張っつてね」「応援しとるよ」など・・・、たくさんの励ましの言葉を頂



を使う作業が続く



かつての教え子から花束を受け取る藤井清包先生㊦



美しい歌声を響かせた「獅子会」の面々

懇親会の冒頭で校歌を斉唱



同窓会の結束を訴える細川匡会長



平成31年卒を代表して入会あいさつ



母校の佐藤隆吉校長と来賓の井上哲士参院議員

縁 つながる



あちこちで世代を超えた談笑の輪

き、励まされると同時に先輩方の母校に対する熱い思い、愛情を感じ、この総会を何と少しでも良いものにした、と改めて強く思いました。

今年度の年間テーマは「縁 つながる ひろがる」です。

この総会において少しでも多くの皆様に同窓生としてのご縁が繋がりが広がり、この鯉城同窓会の結束が少しでも強くなったのであれば幸いです。

最後に、総会開催にあたり、我々当番幹事をサポートして頂いた事務局、各委員会の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成8年卒
当番幹事代表 横田英一郎



今年も締めは応援団の演舞



会場では記念品(タオルハンカチ)の販売も



受付段階から神経

私の近況

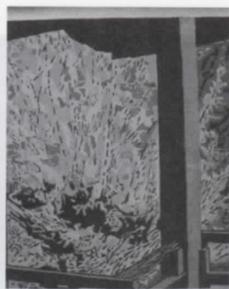
GANNBARISM

版画への興味 深まるばかり

昭和43年卒 正木 太

広島市役所を定年で辞めたのは9年前の春。嘱託で勤め続けることにはなつたが、時間的な余裕ができた。「これはなんとかせにゃ、もつたない」。ふと頭に浮かんだのが版画だった。

もともと興味はあつた。それまでも、稚拙ではあるが手作りの年賀状を友人・知人に出して



直近の作品
「宮島千畳閣から」

いた。カルチャ―教室通いを決めた時、先生から受けた説明にはショックを受けた。

それは「版画の出来栄は、下絵が7割、刷り2割、彫りが1割」という内容。絵が苦手だから版画を選んだ面もあったのに。月2回の教室は何年経っても毎回反省と新たな発見の繰り返しで、興味が尽きることはない。

これまでに手掛けたテーマは、風景、神社・仏閣、風情のある街並みなど。多色刷りの作業は多くの時間を要し、私のレベルでは年に2作を完成させるのが精いっぱい。

現在、取り組んでいるのは「天空の城」として有名な兵庫県の竹田城。現地に足を運び、イメージを頭に叩き込んだ。写真も撮った。あの雄大さをどうして表現しようか、戸惑いと格闘する自分を楽しんでいる。

(広島県安芸郡府中町)

核兵器の廃絶へ 参院議員の活動

昭和52年卒 井上哲士

7月の参院選挙で、比例代表から4期目の当選を果たすことができました。鯉城同窓会の皆さんから頂いた温かい声援に心からお礼を申し上げます。

日本共産党の参院議員として18年。原爆で亡くなった先輩たちのことを胸に刻み、核兵器廃絶を訴え続けてきました。国連を3回訪ね、核兵器禁止条約の採択にも立ち会いました。選挙後、再上映された映画「ひ

ろしまーを見ました。被爆8年後に作られたこの映画を最初に見たのは高校での上映会。当時の中一の1年生が建物疎開の作業中に被爆し、先輩たちが「鯉城の夕」を歌って励まし合いながら亡くなっていくシーンは衝撃でした。我らが応援歌があんな悲しい歌われ方をしたのかと何度見ても胸に迫ってきます。

選挙後の8月6日、高校の正門横の慰霊碑に当選の報告をし、核兵器のない世界の実現と憲法九条を守り、平和に生かすことを誓いました。

鯉城同窓会出身の国会議員としてこれからもがんばります。よろしくお願ひします。

(京都市左京区)

日本人の心感じた 機内C Aのお辞儀

昭和52年卒 國本佳宏

仕事柄、乗り物移動が多い。テクノロジーの進歩はいつでもどこでも私たちに作業を強要するので、例えば流れる景色をぼつと眺めながらの自分との対話とか、ふと目にしたものからの発見とか、所謂旅の恩恵と言うよ

うなものを得にくくなってきたと実感する。

先日乗った飛行機は台風の影響で揺れに揺れ、早々にC Aにも着席指示が出された。私も仕事どころではなくなり、揺れに身を任せながら、ただじっと前方を見るとはなしに見ていた。機長のアナウンスの中で機内サービスができないことを詫びる言葉があつたが、それに合わせて客席とは隔てられたギャ

レー(調理場)で着席したまま深々とお辞儀をするC Aの頭がわずかに見えた。恐らく気づいたのは私だけだっただろう。電話の向こうでお辞儀をする日本人の心と通じる、あるいはそれ以上の思いを感じた。オフィスに閉じこもっていたり、機内で仕事に夢中になっていたなら、こんな大切な場面に気づくこともなかっただろう。

(広島市東区牛田東)

応援団の精神で これからも精進

平成7年卒 境 勇司

私は現在、東京都江戸川区にて会社勤めをしております。職種は水処理施設の施工管理です。年齢的にも立場的にも責任が大きくなり、人を育てる難しさを感じながら日々を過ごしております。

高校時代は応援団の団長を務めておりました。応援団発足後30年を経過して、なおも変わらず古き良き伝統を継承する応援団でしたが、変わりゆく時代に受け入れられず、応援団の存続

の危機に直面している頃でした。私は伝統を後世に残したい、必要とされる存在でありたいという一心から、どうすれば愛され、親しまれる応援団になれるのか、悩み続けた高校生活でした。

昨年度二本会にて、応援演舞のリーダーとして皆様の前に立たせて頂きました。諸先輩方からの温かいお声掛けや拍手を頂き、23年の時を経て高校時代の苦悩が報われました。

これからも高校生活で培った心や応援団の精神で、人や社会に必要とされる人間となれるよう、精進する所存です。

(東京都江戸川区)

フリーの保健師 幅広い活動展開

平成8年卒 久保(安井)陽子
このたびご縁あり、近況報告の機会をいただきました。

高校時代は陸上部に所属し、部活と其の後の遊びに精一杯時間を捧げた生活をしていました。卒業後は看護大学に進学し、看護師をした後、ワーキングホリデーでカナダに留学、その後、看護大学教員をしてきました。

そんな私も今では4児の母となり、ワークライフバランスをとるために働き方を変え、フリーの保健師として、赤ちゃん訪問や乳幼児検診、育児相談や大学の実習指導などを行っています。

また、「日本の無縁社会を解消する」「子育て中がメリットになる働き方をつくる」というビジョンとミッションを掲げて活動するママの働き方応援隊福岡八幡校代表として、教育機関や高齢者施設で赤ちゃん先生プロジェクトという活動をしています。

その他にも、出張フリースペースや山遊び、木工教室など親子で楽しめる場作りや、様々な縁つなぎ、情報発信を行っています。多岐にわたる活動をしているため、全ては書ききれませんが、みんなが少しでも楽しく幸

せな時間が過ごせることを願って様々な活動をしています。

(福岡県八幡市)

週末を利用して お城巡りに情熱

平成8年卒 児玉勇樹

私の趣味の一つは城郭(お城)巡り。週末やまとまった連休を利用して、県内はもちろん県外にも足を延ばしている。

お城に夢中になったきっかけははっきりと覚えていないが、男子なら一度は憧れたであろう戦国武将から派生していったものと思われる。

日本には城郭遺跡は、3万から4万はあったと言われている(5万以上の説も)。そのうち自分が訪れたお城は、ほんの一部に過ぎない。日本城郭協会が認定する日本城郭検定の資格を持つ自称「お城マニア」である私でも、知らないお城のほうが圧倒的に多い。

今回お薦めする城は、岡山県高梁市の臥牛山頂にある「備中松山城」。国内の現存天守は12基。中国地方にあるのは、島根県の松江城と備中松山城の2基だけである。

広島からだと自家用車でも電車を利用して、十分日帰りが可能。最寄りのJR伯備線「備

中高梁駅」から登山口までは、タクシーや乗合タクシー(要予約)が便利だが、足腰に自信のある方には徒歩をお薦めする。

登山口までには多くのお寺や武家屋敷があるので、それを見ながら歩くのも楽しみの一つである。

天守の麓にたどり着くと、目の前に聳えるのは、天然の岩の上に築かれた石垣である。実はこのお城、数年前に放送されたNHK大河ドラマ「真田丸」のオープニングのバック映像に利



お薦めの備中松山城天守閣

用された。信州真田氏とは全く関係ないが、イメージに合うということでロケ地に決定したそうである。

最近では猫の城主として人気のある「さんじゅうろ」もお出迎えてくれる。

お城以外にもちょっとしたトレッキングや観光しても楽しめるので、ぜひ一度足を運んでみてはいかがだろうか。

(広島市南区向洋本町)

ヨガの指導通じ 心身の健康応援

平成15年卒 前(黒川)雅代

私が今の仕事を始めたのが13年前。まだ当時ヨガが一般的ではなかった頃に、高校の近くの街中にスタジオを開設したので、スタジオのオープンと同時に授かった息子も今は中学生、人生もひと段落といったところです。

昔からエスニック料理と服に興味があった私が、ひよんなことからインドへ渡航することになり始めたヨガですが、人一倍健康と身体に興味があった私に

とって有意義な仕事となり、あつという間に年月が経ちました。

昨今、ヨガも幾ばく市民権を得てきたように思いますが、美容とフィットネスという側面が大きくなってきたように感じます。これはこれで良いことなのだと思いますが、微力ながらも私が一貫して追い求めてきたのは、日々の生活で一生懸命に頑張っている皆様に「健康で健やかな毎日を送る」ために心と身体を整えるということ。

皆様の健康をこれからも陰ながら応援できればと思っております。これからもよろしくお願ひします。(広島市中区大手町)

実家の神社に 奉職し5年目

平成23年卒 池田憲明

私は現在、宇品にある実家の神田神社に奉職しています。高校卒業後、三重県にある皇學館大学にて4年間修業し、神職として今年で5年目になりました。

神職の仕事は、朝の清掃から始まります。その後は各種祈禱や、参拝者の対応(最近には特に御朱印をいただくに來られる方が多い)をして1日が終わります。

今の時期は秋祭り、七五三、正月の準備と忙しいながらも充実

した日々を送っています。

また県内の神社界には国泰寺の卒業生が多くいらつしやいます。普段会う方はもちろん、初めて会う方でも国泰寺出身同士で話が盛り上がることもありました。国泰寺の卒業生であることに感謝した瞬間です。

卒業して8年、こうして振り返ってみると時の流れは早いものだと実感します。まだまだ26歳の未熟者の私です。これから

も精進していくとともに、国泰寺高等学校、鯉城同窓会の一層の発展を願っています。

(広島市南区宇品御幸)

同期会だより

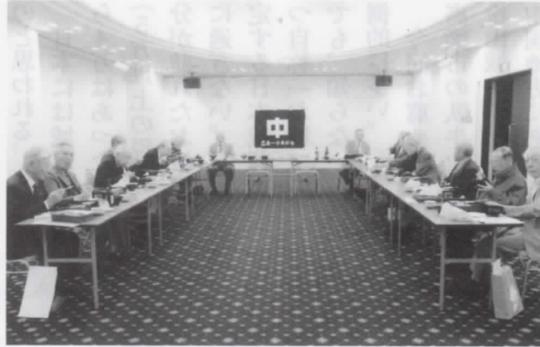
14人の仲間 米寿に集う

昭24年⑤卒

今年の同期会総会は6月1日、広島市中区紙屋町のメルパルク広島で開催したが、数え年で言うなら「米寿記念同期会」、新年号で言うなら「令和元年記念同期会」と、いずれにしても節目の貴重な例会であったにもかかわらず、出席者はわずか14名と、いささか淋し過ぎた。

出席返信は16通届いていたのだが、急用のため当日の朝、会費だけ納めて欠席変更が1名あり、もう1名はどうとう会場へ姿を見せてくれなかったあたりは、いかにも高齢者の集団らしい風景とも言えようか。

それにしても前年24名を数えた出席者が一気に8名も激減するなど予想もつかぬことだった。4名の急逝組は確かにあった。年齢的にも体調に何らかの問題をかかえた仲間が多いこともまた疑うべくもない現実をまざまざと見せつけてくれた今年の同期会は「米寿々々」とあまり浮かれるのもどうか、と世話



人の耳元でささやいているように思えて仕方がない。

(福岡駿吉)

当初は「最後の会」 楽しさの余韻今も

昭28年卒

今回の同期会の案内状の文面は、次の通りです。

「同期の皆さんお元気ですか。我々は戦争、原爆、終戦を共に生き、バラックの校舎で学び、苦楽を共にした学友です。母校を卒業して66年が経ちました。最近「元氣なうちに会いたい」との要望が多いので、今回、最

後の同期会を開催します。何卒万障お繰り合わせの上ご出席下さい。当日は、つもる話に花を咲かせましょう。皆様のご来会お待ちしております」

そして令和元年9月26日午後1時より、メルパルク広島での同期会を開催しました。今回の案内への当初の出席回答は、非常にいいものでしたが、ドクターストップがかかる人が出るなど、開催前夜まで振り回されました。

考えてみれば、参加者の大多数が85歳を超えているんだっ



け。今も耳の底に残るのは「よかった」「楽しかった」「またやろう」「次はいつ」の声ばかりです。

(原 時彦)

1度取りやめ 要望あり再開

昭29年卒

毎年開いていた同期会ですが、昨年は私の勝手な考えで、もうそろそろいいのじゃないのかと、開きませんでした。でも、4月に東京の同期会に出席したときに、関西から来た友から「毎年開いていた同期会をなぜ開かないのか」と言われ、やはり開こうと考え直して開きました。

ただ出席者は32名にとどまり、この2年間の計報は8名にのびります。連絡のない方もあり、ますます寂しくなる同期会ですが、1年置きであっても開かねばならないでしょうね。

出てこられた方々の会話も、年齢を感じさせるような話題が多く、要介護度の認定についてとか、老人ホームはどこが入りやすいとか、身につまされるような話が目立ちます。まだ長生きして、あれもしたいとか、これもしたいとかの会話は聞けませんでした。

私は老人クラブの百歳健康体操に毎週参加しています。今で

は最高齢者のグループになりましたが、いつまでもお世話ができるように頑張りたいと考えております。

(岸田卓也)

ゴルフや麻雀 山歩き楽しむ

昭31年卒

18歳の春、それぞれの希望に燃えて旅立った7期生は、80歳を優に越えました。毎年同期会を幹事の肝いりで開いてきました。今年も広島市の紙屋町メルパルクホールで、6月に55名集



まりました。

年々参加者が減っていくのは仕方のないことですが、カーブ優勝まで頑張ろう！と、掛け声がかかっています。

日本の高度成長期を支えた企業戦士たちも、定年を迎えて自

由な時間を持てるようになったところから、同期生の中でもいくつかの同好の集まりができました。

東京在住の方たちは毎月第3水曜に懇親会をしています。広島では月一のランチ会、山歩き会、ゴルフ、元氣UPカラオケ会、麻雀会と、残された命を豊かに生きるための生活の知恵を分かち合いながら、交流が続いています。

あの高校3年間で生んだ連帯感に感謝しています。

(野々山朋子)

われら傘寿迎え 毎月の例会277回

昭33年卒

昭和、平成そして令和。昭和33年卒の我々はほとんどのメンバーが今年『傘寿』を迎えた。共に学び、共に遊んだ3年間から今ではともに趣味を楽しみ、酒を楽しみ60年。

古希、喜寿、そして傘寿。振り返ると脱兎のごとく駆け抜けてきた。戦後の貧困時代、高度経済成長期、バブル期、そしてバブル崩壊を乗り越えてきた我が世代は人生経験豊富。光る頭、白髪は目立つが80歳を超えてもパワー全開。

卒業と同時に同期会をスタート。昭和51年に名称を「紫旗

の会」とする。メンバーの結束は固いのが自慢。人生経験豊富、多士済々で世話役にことかかず。毎月の例会は重ねること277回を超えてギネスもの。まずは米寿を目指してまだまだ続く。

東京・中部・関西の各支部活動も活発。絵画、書道、ゴルフ、山登り、囲碁、太鼓等々同好会活動も長年続いている。

毎月の例会は夜昼と時間は替わる。昼はますます元気な女性陣を中心に40名近く、夜は酒は大勢で飲むのが最高と男性を中心に12〜3名で盛り上がる。年間行事の核は観梅、観桜、忘年の交わりと自然とアルコールを愛でること。令和の時代も続く。

人生100年時代といわれる今や80歳はまだまだ若い。無理をせず、出しゃばらず、おまけのつもりで余生を楽しむ。

12月には広島に全国より同志が集まり傘寿を祝う。ここまで来たことに感謝するとともに、亡き学友たちのご冥福を祈りながらさらなる親睦を重ね、今また動き出す。

紫旗の会の活動は、例会300回を目指して、まだまだ続く。

(中西靖夫)

松尾先生を囲み 卒業60周年祝う

昭34年卒

6月26日(水)メルパルク広島で開催。参加者は60名と92歳の松尾博之先生の61名。前回より9名が亡くなられ、67名が鬼籍に入られた。

13時懇親会の開始。物故恩師・同期生に対し黙祷。中田代表幹事の「開会挨拶」に続き、松尾先生に花束贈呈後「卒業60年を経過してもなお同期会を実施するのは稀な学年である」と先ずお褒めを戴いた上で、先生のご近況や愛読書(小説「終わった



人」内館牧子著ほか)の紹介等を交えた「来賓挨拶」があった。

先ず校歌斉唱。吉野幹事の発声で乾杯に続き会食、懇親会に入る。県内外から多数の参加者あり。懇親会の途中「クラス紹介」があり、近況等の報告が行われた。クラス毎のテーブル席を超えて各自思い思いに席を変わり、和やかに喋りながら飲む、食べると楽しい時間が経過した。終りに丸山幹事が「閉会挨拶」。

その後、松尾先生を囲んでの全員記念撮影を行い全日程を終了。

次回以降については、丸山幹事の閉会挨拶の中で「同期会としては今回を以て終了する」と紹介。4組は松尾先生ご存命中は毎年クラス会を行うとの意思表示があったが、他のクラスは独自の対応があると考えられる。なお今回の余剰金12,720円は同窓会サポート基金へ寄付した。

(上神慶紀)

人との交流 元気の秘訣

昭42年卒

令和元年6月22日(土)の午後1時から、国際ホテル広島において昭和42年卒同期会を開催した。

古希を迎えた2年前の総会乾杯学年で「同期会もこれで終わり」と話し合っていたが、「集まろう！」との要望が多く、再開することになったものである。

同期の仲間51人と恩師1名。これまで子育てや介護等で不参加であった方も「初めての参加だが楽しかった！」と高校時



代を懐かしみ、クラスを超えた輪が出来ていた。幹事として嬉しかったことは、今回女性の参加が多かったこともあり「やって良かった！」と思っている。会の終わりの挨拶で、黒田佳代子さんのことばが「これからも元気で楽しく過ごす秘訣は外に1歩出ること。同窓会などの集まりに参加し、人と交流する

ことが大切」であった。同期生が段々少なくなるが「元気度確認会」と思い、来年も開催する思いを強くした。

(竹島宗雄)

「獅子会」の17人 混声合唱楽しむ

昭44年卒

令和元年10月3日、広島市西区民文化センターで開催された第21回シニアコーラス・フェスティバルに同期生17名で混声合唱団として初めて参加しました。

500名を越えるホールでの演奏は初めてでしたが緊張することもなく、平素の練習通りの演奏ができました。

私達は昭和44年卒業同期会の「還暦会」が縁で知り合い、獅子会広島音楽部(混声合唱)を結成して現在に至っています。

練習は月2回鯉城同窓会館をお借りして励んでいます。

目標を持ちステージ演奏を重ねる事が上達への近道と思ひ、進んでステージに立つようになっています。

これからも、メンバーの安否確認も兼ねて細く長く楽しく活動を続けたいと思っています。

(現在の会員)

小田孝則 齊藤 仁 陶山哲雄
田中健二 坪田雅裕 中曾止夫

西本雅裕 平岡英樹 山本真次
松本國重 青木裕子 熊野章恵
齊藤たえ子 下條貴子
世良田千代美 寺山久美子
橋本則美 横町喜美子
吉永美鈴

(平岡英樹)

5年ぶりの開催 母校見学や歓談

昭47年卒

令和元年8月10日、リーガルイタルホテル広島で同期会を5年ぶりに開催しました。

今回は、参加者の希望で、次の要領で会を進行しました。

11時から母校見学(28名参加)。母校に在籍していた同期生が校内を案内しましたが、同窓会や高校の先生にもお世話になりました。

12時45分からホテルで開会。黙とう、校歌斉唱の後、すぐに歓談に入りました。

13時30分から、9組から順にステージに上がり、一人15秒以内の自己紹介。そしてクラスごとの写真撮影を行いました。

途中、同窓会幹事から同窓会や学校の状況説明、代表幹事の挨拶・説明があり、15時すぎから閉会行事。「鯉城の夕」を大合唱して一次会を閉会しました。

今回は、前回に比べ約30名少

ない約80名の参加でしたが、前回住所が分からず参加出来なかった人が参加されており、楽



しいひと時を過ごすことができました。二次会は、新天地にあるスパパーククラブに約60名が集まりました。

(廣本 円)

関東圏の在住者 32人還暦の集い

昭53年卒

昭和53年卒の関東在住者による還暦同期会を10月5日に銀座のPARTY専門店フォーエタニティで行いました。

同期会という広島で4年に1度行われていて、来年は還暦を過ぎての会として大々的に行

われるのですが、広島には行けないという人もいますので、還暦になる今年に企画したのがこの同期会です。参加者は32名。東京では初めての同期会ということでしたが全クラスの人の参加を得ることができました。

会に先立ち中村武雄先生、福本(西崎)坦先生、下平文治先生からメッセージを頂いたことを紹介して、久保田君の乾杯で宴会スタートです。最初、3年時のクラスでまとまっていた輪も「1年の時一緒だったよね」「同じクラブの人、集って」の掛け声で次々と新しい輪が広がっていき、都度、思い出話と記念撮影。

後半には赤羽(川上)君の司会で「せっかくだから一言話そうよ」が始まりました。

一言のはずが、41年も経っているのですから簡単に終わるはずがありません。皆、それぞれの思いの丈をぶつけていました。

最後に、校歌斉唱と応援団OBの片山君のエールによる鯉城の夕を高らかに歌い、集合写真を撮って閉会となりました。還暦を機にした今回の同期会が、皆にとって、今後の長寿祝い時の同期会に繋がる励みと楽しみになってくれればと思います。

ます。

(寄田浩司)

95歳の節目 人が出席

昭58年卒

私たちが昭和58年卒は、2019年8月16日、メルパルク広島にて、第3回同期同窓会を開きました。5年前の第2回同期同窓会が50歳記念。今年は55歳の節目の年、次回は還暦祝いの予定です。今回は95名の同期生が出席してくれました。

国泰寺高校に在校当時は、1年生から2年生に上がる時だけクラス替えがあり、3年生に上がる時は、そのまま持ち上がりでした。また、教室の割振りも、1年時は、木造校舎と四号館の3階、4階と分散しており、他のクラスとあまり交流がなかった気がします。

しかし、当番幹事を経験してからはその垣根が低くなり、今回も、同じクラスになったことがない方が声をかけてくれました。卒業以来、初めて声を交わした同期生もありました。

テーブルごとに昔話に花が咲き、ゲームで盛り上がった後、「鯉城の夕」を高らかに歌い、再会を誓い合って散会となりました。

(西井 淳)

お悔やみ申し上げます

(平成30年11月1日〜令和元年10月31日の間の死没者で過去掲載されていない方々、敬称略)

小川 斌 (昭18年)	山肩 和夫 (昭17年)	天野 英春 (昭17年)	武田 英雄 (昭15年)	長尾 文平 (昭14年)	川崎 茂 (昭13年)	畝本 義治 (昭13年)	白井 丈夫 (昭12年)	洪田 輝雄 (昭12年)	山岡 萬謙 (旧職員)	村木 勉 (旧職員)	宮地 健次郎 (旧職員)	中村 法 (旧職員)	寺田 一昭 (旧職員)	塚本 清治 (旧職員)	伊達 康弘 (旧職員)	高橋 成章 (旧職員)	坂下 喜治 (旧職員)	兒玉 忠士 (旧職員)	合田 学 (旧職員)	北村 文暁 (旧職員)	落合 幸彦 (旧職員)	岡 雅子 (旧職員)	大西 道雄 (旧職員)	大谷 昇 (旧職員)	今井 秀明 (旧職員)	板倉 良秋 (旧職員)	荒木 大四郎 (旧職員)	荒井 輝雄 (旧職員)					
大森 裕隆 (昭24年鯉1)	島本 正登 (昭24年鯉1)	定本 憲吾 (昭24年鯉1)	豊田 琢二 (昭24年鯉1)	佐々木 祐一 (昭24年鯉1)	福木 基哲 (昭24年⑤)	葉佐井 博巳 (昭24年⑤)	田村 銳治 (昭24年⑤)	田曾 忠衛 (昭24年⑤)	田島 孝三 (昭24年⑤)	坂田 正二 (昭24年⑤)	梶川 良一 (昭24年⑤)	金原 龍三 (昭24年⑤)	木村 光男 (昭24年⑤)	香川 龍司 (昭24年⑤)	重松 良典 (昭23年)	佐川 一彦 (昭23年)	米田 達郎 (昭22年)	桂 肇 (昭21年)	吉田 富士雄 (昭20年)	戸林 弘 (昭20年)	吾野 金郎 (昭20年)	山本 俊三 (昭20年)	水野 裕郎 (昭20年)	真鍋 善暢 (昭20年)	田島 隆之 (昭20年)	八谷 定徳 (昭19年)	瀧本 哲郎 (昭19年)	野崎 明 (昭18年)					
頼文 夫 (昭29年)	眞鍋 毅 (昭29年)	岡田 樹宜 (昭29年)	阪井 哲夫 (昭28年定)	渡部 正信 (昭28年)	林 克 (昭28年)	初本 幸二 (昭28年)	佐竹田 勝 (昭28年)	大塚 憲郎 (昭28年)	石田 耕造 (昭28年)	安達 毅 (昭28年)	手島 武 (昭27年)	伊達 健郎 (昭27年)	山本 照子 (昭27年)	宮崎 登美子 (昭26年)	宍戸 和子 (昭26年)	山岡 究 (昭26年)	平山 英男 (昭26年)	松本 達男 (昭25年定)	世良 哲也 (昭25年)	古本 一 (昭24年第三)	村田 満久 (昭24年併)	土路 重照 (昭24年併)	諏訪 了我 (昭24年併)	亀井 郁夫 (昭24年併)	岡本 正蔵 (昭24年併)	西尾 義文 (昭24年鯉1)	下迫 次郎 (昭24年鯉1)	定岡 野武夫 (昭24年鯉1)					
久保田 省三 (昭30年)	上田 普弥子 (昭30年)	松村 憲一 (昭30年)	小川 僚一 (昭31年)	堀野 久子 (昭31年)	河野 百太郎 (昭31年定)	少前 寛治 (昭31年定)	大原 征治 (昭31年)	石丸 行子 (昭32年)	杉本 嘉宜 (昭32年定)	染井 益一 (昭32年定)	藤井 邦明 (昭32年定)	阿曾 沼陸雄 (昭33年)	中西 義之 (昭33年)	島山 勲 (昭33年)	砂池 博 (昭33年定)	山田 敦子 (昭34年)	山本 淳子 (昭34年)	室永 二千武 (昭34年)	林 真喜子 (昭34年定)	国村 理弘 (昭35年通)	林 邦子 (昭36年)	堀田 宗茂 (昭36年)	村上 弁章 (昭36年)	平賀 侃次 (昭36年定)	中井 清潤 (昭36年定)	中原 正俊 (昭36年定)	江盛 俊明 (昭37年)	古村 靖夫 (昭37年)	山下 誠 (昭37年)	西村 喜八郎 (昭38年定)	設楽 恵子 (昭38年通)	戸田 正純 (昭39年)	浜野 哲史 (昭39年定)
岡本 典子 (昭40年)	大井 康裕 (昭41年)	中川 保彦 (昭41年)	牧田 葉子 (昭41年)	丸橋 正記 (昭41年)	山田 英雄 (昭41年)	原田 忍 (昭42年)	有場 啓子 (昭43年)	濱谷 洋充 (昭43年)	岩本 明 (昭43年)	高藤 博文 (昭44年)	能地 義貴 (昭44年)	越智 文嗣 (昭45年)	迫田 和雄 (昭46年定)	古川 康夫 (昭47年)	古谷 満理子 (昭47年)	山中 茂樹 (昭50年)	橋本 直樹 (昭53年)	久保 智志 (昭55年)	中根 孝典 (昭55年)	檜和 田武志 (昭57年定)	上野 章子 (平2年)	八谷 春海 (平2年)	橋本 孝志 (平4年)	橋本 留美 (平11年)	廣信 雄輝 (平18年)								



校舎や校名の変遷たどる 同窓会館で写真展



一中時代の正門の写真。今も現状保存



文化祭の飾りつけをした
昭和53年当時の正門



母校の歩みを写真でたどる
企画展の展示の一部

鯉城同窓の皆さまには、本校の名称が、学制改正などにより変わってきたことは、広くご承知のことと思います。

本校のルーツである明治7(1874)年の官立広島外国語学校、創立の礎である広島県中学校以来、広島中学校、広島尋常中学校、第一尋常中学校、広島中学校、そして大正11(1922)年には広島第一中学校、戦後には昭和23(1948)

年鯉城高等学校に翌年の昭和24(1949)年に広島国泰寺高等学校となりました。

一方、学校の所在地については、どのような変遷があったのでしょうか。

明治7(1874)年に大手町1丁目から始まり、下中町(現在の中町、小町、袋町)を経て、明治24(1891)年に当時は国泰寺村と呼ばれていた現在地に校舎が建てられました。

昭和20(1945)年8月6日の原爆投下により本校も多くの教員・生徒が亡くなりました。また、校舎も甚大な被害を受けましたが、9月には、翠町の寄宿舎を学校本部として分散授業を開始し、翌年には江波の陸軍病院跡(江波二本松周辺)と第三国民学校(現在の翠町中学校)を使つての授業を行っていました。

昭和21(1946)年11月に

現在地の国泰寺町に建てられ新校舎に復帰し、今日に至っています。

資料保存委員会では、本校の校舎等の変遷を踏まえ、当時は辿る写真を鯉城同窓会館で展示しております。同窓の皆さまには、是非、同窓会館を訪ねていただき、当時を偲んでいただければ幸いです。

資料保存委員会(昭和48年卒)
万徳良男

内容として、昭和34年に第1号を発行して以来、今号の第72号発行を迎えた。委員会発足当時はインターネットなどない時代だったが、今や「広報」の領域も大きく拡大した。

例えば、同窓会のホームページは同窓会員の森重普貴さん(平成3年卒)に作成を依頼しているほか、同窓会の歴史や資料を発掘・保存する作業は資料保存委員会が担当、大きな足跡を残した同窓生を発掘・記録する「人物録」作成は、会員委員会が担当している。今回の広報委員会の名称変更は、活動の実態に即した表現にするのが目的。

母校振興委員会の総務委員会への統合により、7つあった常任委員会は総務、運営、財務、会報編集、資料保存、会員の6つになった。

いと自負している。

「広報委員会」の名称が「会報編集委員会」に変わった。古い上着よ、さようなら(この表現がもう古い?)。中身を一新するために「スタッフ急募」「委細面談」。どこからか「自分はこっそり抜けていこうとしているのでは」というつぶやきが聞こえてくるのは気のせいか。

(大石)

「会報編集委員会」に 広報委員会から名称変更

鯉城同窓会の7つの常任委員会のうち、広報委員会が会報編集委員会に名称変更、さらに母校振興委員会は総務委員会に

統合されることになり、それらを盛り込んだ会則改正案が、11月の同窓会総会で承認された。

広報委員会は会報編集を活動

編集後記

お寺の住職さんと話す機会があった。活字離れの話から「うちでも寺報を出しているのです。読んで下さるのは門徒さんの1割くらい」。ひるがえって、わが会報は…。「読まれています」と言い切る自信は、まったくない。作り手側の責任を考える。たとえて言えば料理人。懸命に腕

を振るったつもりでも、客からは「この味は口に合わない」という無言の反応。さて、どうする。いつも工夫は、そこから始まる。時代とともに、会報も変わっていく。変わっていくかねば、取り残される。編集スタッフの構成も同じこと。世代交代は待つたなし。仲間に加わってみようという奇特な方はいらっしやらないだろうか。会の雰囲気はい